

## 和文書体と欧文書体それぞれの特徴を知る。4-10-1

日本語では合計「4つ」の文字を使います。それらは大きく分けて「和文書体」と「欧文書体」の2種類に分けられます。

### ✓ 和文書体と欧文書体の2種類に分けると…

#### ▼和文書体

字 あ ア

・漢字 ・ひらがな ・カタカナ

#### ▼欧文書体

A

・アルファベット

### ✓ 和文書体の構成要素についての解説

永

#### 1.ボディ(仮想ボディ)

文字をデータ化した際に定義する「目には見えない正方形の枠」の事です。金属活字の「文字を収める枠(外枠)」の事を「ボディ」と呼んだ事から来ていて、データ化した文字には物理的な枠が無く、目に見えない事もあり「仮想ボディ」と呼ぶようになりました。

永

#### 2.字面(じづら)

字面(じづら)は「ボディ(仮想ボディ)」の内側にある、文字がデザインされている場所の事です。

永

#### 3.エレメント

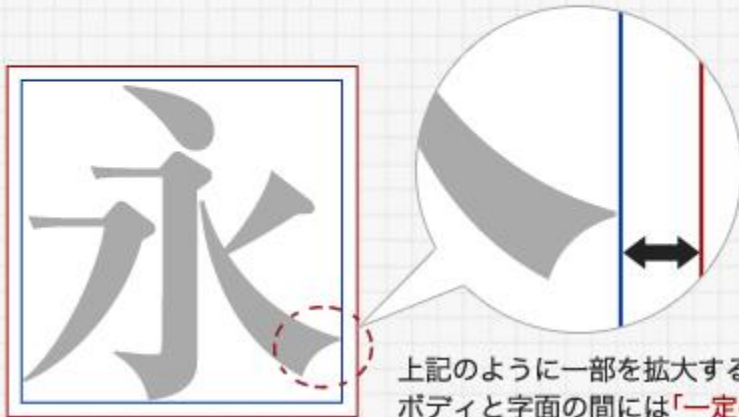
文字を装飾する具体的な要素(「てん」や「はらい」「はね」など)の事を言い、それぞれの文字の特徴的な外観を作っている要素です。

永

#### 4.骨格

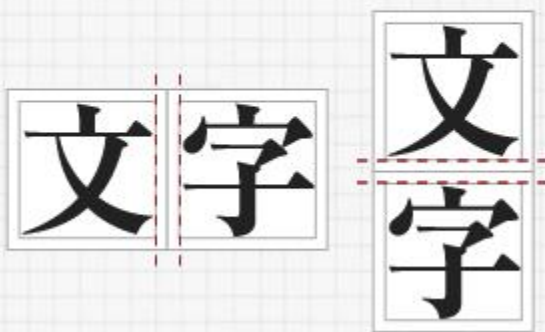
文字を形作るための「中心線」の事を言います。この骨格があることで文字として「一定の形」を保つ事ができます。

✓ ボディ(仮想ボディ)と字面(じづら)の関係。



上記のように一部を拡大するとよくわかりますが、ボディと字面の間には「一定の空間」が存在しています。

文字を横や縦に組んでみると…



左の例の様に文字を横や縦に組んでも、文字同士の間には「一定の空間」が作られ、「読みやすさを保てる」訳です。

※サンプルはわかりやすくするために、わざとボディと字面の間を大きめに取っています。

同じ書体でも、字面は字種ごとに「大きさ」が変わる。

「漢字・ひらがな・カタカナ・アルファベット」を同じ文字サイズで入力しても、「字種ごとに文字の大きさに違いがある」事を知っておきましょう。

これは、書体をデザインする際に「漢字」の大きさを基準にして、ひらがな・カタカナ、アルファベットとそれぞれの字面のサイズを「小さく」設定して作るのが一般的であるからと言われています。

※ただし、書体によっては漢字とかな（ひらがな・カタカナ）のサイズの差がほとんど無い書体もあります。（モリサワの「新ゴ」など。）

✓ 字種毎に変わる文字のサイズ

字 あ ア A

使用フォント: ヒラギノ角ゴ (96pxで表記)

サンプルを見てもらえばわかると思いますが、漢字の高さを基準にした場合、ひらがなはわずかに小さく、カタカナ・アルファベットは明らかに小さい事がわかります。

※それぞれの文字は、ボディ(背景のグレーの枠)の中央に配置しています。  
※使用するフォントの性質によって、見た目の大きさにあまり差が無いフォントもあります。

✓ 文字の組み方で変わる「ベースライン」の位置

文字もジ。

字もジ

永

横組みの場合のベースライン  
ボディの下側からやや上の位置にあります。  
一般的には、ボディの高さの「約12%程度の位置」と言われます。

縦組みの場合のベースライン  
ボディの中心線がベースラインになります。

※横組みの場合は、字面のサイズや書体デザインによってベースラインの位置が変わる事があるので、気をつける必要があります。

## ✓ 欧文書体の基準線



### ▼ 欧文書体の基準線の解説

#### ① アセンドーライン

小文字の「bやh」の垂直な線(アセンドー)の上部の基準線です。キャップラインよりも上部に設定されます。

#### ② キャップライン

「大文字の高さの基準」になる線です。大文字の「TやE」の上部の水平ラインがキャップラインの基準になります。

#### ③ ミーンライン

「小文字の高さの基準」になる線です。この線の高さは小文字の「x」と同じ高さになります。

#### ④ ベースライン

全ての文字の「基準」となる線です。大文字、小文字問わずすべてのアルファベットは、このベースラインに乗るように設計されています。

#### ⑤ ディセンドーライン

小文字の「p」などが持つ垂直な線(ディセンドー)の下部の基準線です。必ずベースラインの下に設定されています。

※基準線の高さは「書体ごと」に設定されています。

文

字ごとで「幅が異なる」ボディを持っている。

欧文書体の横幅の設定方法が和文書体と異なるからなんです。欧文書体は「セット幅」がボディの横幅を決めている。

## ✓ 欧文書体の「セット幅」

